



# わかやま市民生協との 合併に向けた検討を 始めています

これからどのような生協をめざすのか、  
より多くの組合員の願いや想いを  
“かたち”にしていきたいと考えています

# わかやま市民生協との合併に向けた検討を始めています

## 1 いづみ市民生協の誕生

- 二度にわたるオイルショックによる狂乱物価や物不足、森永ヒ素ミルクなどの食品公害が深刻な不安を消費者にひろげる中、「生活と健康を守る砦としての生協をつくろう」という強い思いのもと、1974年11月5日にいづみ市民生協は誕生しました。今年で52周年を迎えます。
- さまざまな考え方や意見の違いを乗りこえ、みんなで力を合わせて生協を育てていくという決意は、地域社会の一員としての責任を自覚しながら、今も私たちの原点として受け継がれています。

## 2 わかやま市民生協の誕生

- 1974年にいづみ市民生協が誕生した後、「和歌山でも生協を利用したい」との声が上がりました。当時は法律により、県を越えての活動はできなかったため、和歌山県でも1980年にわかやま市民生協が誕生しました。
- 今年で46周年を迎えるわかやま市民生協は、誰もが安心してくらせる地域社会の実現をめざして歩んできました。

## 3 わかやま市民生協について

- 組合員は約10万世帯、事業エリアは和歌山県内全域をカバーしています。
- 年間供給高138億円、経常剰余金 6 億円、経常剰余率は全国生協で 2 位と健全な経営状況にあります。



コープ岩出中央店

コープ中之島店 デザート売り場

## 4 両生協の事業・経営状況

2024年度

生協名	いづみ	わかやま	合計
エリア内人口	303万人	87万人	391万人
エリア内世帯数	139万世帯	42万世帯	182万世帯
組合員数	568,565人	100,663人	669,228人
出資金	164億円	51億円	215億円
供給高合計	982億円	138億円	1,120億円
宅配	666億円	95億円	761億円
店舗	282億円	34億円	317億円
経常剰余	44億円	6億円	51億円
事業所数合計	39	13	52
宅配	15	8	23
店舗	12	2	14
福祉	6	6	12
組合員施設	6	3	9
加入率	40.7%	23.7%	36.7%

(単位:万円)							
資産の部	いづみ	わかやま	合計	負債の部	いづみ	わかやま	合計
流動資産	3,625,599	1,342,875	4,968,475	流動負債	1,745,515	244,195	1,989,710
固定資産	5,039,011	417,557	5,456,569	固定負債	115,713	25,303	141,016
有形固定資産	4,097,201	319,131	4,416,332	負債	1,861,228	269,498	2,130,726
無形固定資産	424,332	3,756	428,088	純資産の部	いづみ	わかやま	合計
その他固定資産	517,478	94,669	612,148	組合員出資金	1,646,185	512,418	2,158,604
				剰余金	5,157,197	978,516	6,135,714
				純資産	6,803,382	1,490,935	8,294,318
資産合計	8,664,611	1,760,433	10,425,045	負債・純資産合計	8,664,611	1,760,433	10,425,045

※数値は2025年3月31日時点

両生協とも経常剰余が黒字で、健全な経営状況にあります。

## 5 なぜ、合併について協議をすすめるのか



### ～両生協のこれまでのかかわりと共通の課題～

- わかやま市民生協の設立当初から深く交流を続けており、宅配事業では共通の商品案内や産直産地を同じくするなど連携をしてきました。
- 店舗事業では商品政策の統一を図り、仕入れ・物流・情報システムなどあらゆる分野で一体的な取り組みをすすめてきました。
- わたしたちを取り巻く社会情勢はますます厳しくなっています。人口減少と深刻な高齢化、人手不足、競合との競争激化、ITシステムや物流設備への投資が年々高額化するなど、単独生協での対応には限界が生じています。
- 一方で、高齢化や「買い物困難者」の増加など、地域課題への期待が高まっています。生協は同じ思いを持つ仲間を増やしながら、組合員の願いを形にしてきました。あらためて組合員のニーズを通じて地域課題に応える生協として基盤の強化を図ろうとしています。

### ～2007年生協法改正における背景～

- 県境問題への対応（生活圏の実態と法制度の不一致）

「府県を単位とする区域」でしか生協を設立できず、生活圏が県境をまたぐ地域では、隣県の生協店舗やサービスを利用できないという制約（いわゆる「県域規制」）が存在していました。

- 組合員ニーズへの対応と経営効率の向上

組合員のニーズは多様化しており、充実したサービスや商品の提供が求められています。その実現には、物流や情報システムへの継続的な投資が必要となりますが、これを単一の県域生協のみで担うのは限界があるとの認識がひろがっていました。

- このような背景を受け、2007年に生協法が改正され、隣県の生協との合併が可能となりました。

- 全国的な生協の動き

コープこうべ（2011年にコープこうべと大阪北生協）、コープみらい（2013年に千葉県・埼玉県・東京都）、ユーコープ（2013年に神奈川県・静岡県・山梨県）、みやぎ生協（2019年に福島県・宮城県）などの広域合併が行われています。

## 6 合併する意義～地域の“これから”を共につくる～

生協は、地域コミュニティと多くの人々の参加を得てこそ、その使命を果たすことができます。1つの生協として、より多くの消費者がかかわる協同組合となることで、より切実なくらしの声として、行政や社会に対する確かな発言力につながります。

- この合併は、より多くの組合員の声を受けて、これからも地域に根ざしたくらしの提案と支援を実現するためのステップです。
- 事業効率やサービスの向上に加え、組織としての活動力、そして地域社会に対する社会的な存在感・インパクトの強化にもつながります。
- “からの地域をどうつくっていくか”という問いに、両生協が一体となって応える。この合併は、協同と連帯を拡大して臨むための大きな前進です。

こうした背景をふまえ、より効率的で持続可能な事業体制の構築をめざし、合併も視野に入れた具体的な検討をすすめるため、両生協で「合併協議会」を設置しました。

# 合併によって期待される展望、そして新しい生協へ



## これからの時代が求める「安心・安全」を追求

組合員の「安心・安全」への期待は、時代が変わっても変わることはありません。  
これからの時代に求められる「安心・安全」に応え続ける生協をめざします。

### 宅 配

- 両生協がこれまで積み重ねてきた強みを継承しつつ、さらに便利にご利用できるしくみを構築していきます。
- 両生協が持つ宅配のインフラを活かしながら、地域性に合った効率的な配送を模索します。
- 高齢化や過疎化がすすむ地域課題に対し、両生協が力を合わせて取り組みをすすめています。

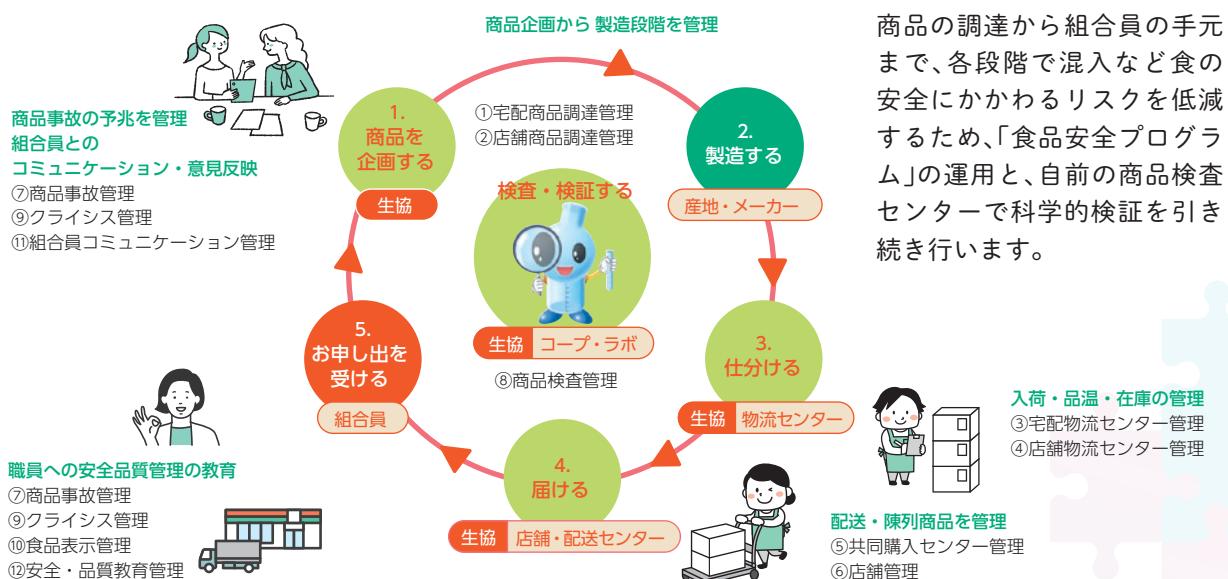


### 店 舗

- 店舗では、豊かで楽しい食生活を提案する“オンラインのスーパーマーケット”をめざしています。
- 両生協とも、おいしさ・楽しさ・感動・健康をコンセプトに、“おなじ思い”を共有しています。これまで共同で店舗づくりに取り組んできたため、大きな変更はありません。



### 食品安全プログラム





## 「魅力ある商品とさらなる選択肢のひろがり」を実現

より大きな「実現力」を活かし商品の選択肢をひろげるとともに、さらに魅力ある商品づくりをすすめます。

### 商 品

- 両生協は共通の商品政策を採用しているため、合併後も調達方針や品揃えに大きな変更はありません。一方で、いずみ市民生協とわかやま市民生協がそれぞれ独自に調達している商品については、合併後、双方の組合員が購入できるよう対応をすすめています。これにより、両生協の組合員がそれぞれの“魅力ある商品”を共有できる環境が整い、商品の選択肢がさらにひろがることが期待されます。



## 「組合員活動のひろがりと連携」の追求

組合員どうしのつながりや協同、地域コミュニティとの連携を大切にしながら、学び・つながり・支え合う機会をひろげていくことは、生協の大切な価値のひとつです。

### 組合員活動

#### 組合員活動のひろがり

合併により他地域の組合員との交流や、活動テーマが多様になり、これまでにない出会いや学びが生まれます。



#### 学び・つながり・支え合う

人々がそれぞれの個性を活かし、学び、つながり、支え合う、そんな組合員活動を大切にしていきます。



#### 多様な参加の輪

コミュニケーションを大切にしながら、参加して「楽しい」と感じられる活動を積み重ね、多様な参加の輪をひろげていきます。



## 総代から寄せられた ご意見・ご要望

- 広く組合員へ情報を提供して。
- 事業エリアが大きくなても声の届く生協であってほしい。
- 生協の理念は変えないで。
- 新しい出会いや学び、活動が楽しみ。
- 他の地域の人との交流もあれば良い。
- わかやま市民生協の組合員の意見も反映して。
- たすけあいの精神をこれからも大切に。
- 相互協力は生協として必要。

- 安心・安全な商品を。
- わかやまの商品に期待。
- 地域特産物を買ってみたい。
- オリジナル商品の開発に期待。
- キャラクターを大切にして。
- くらしに役立つ事業をすすめて。
- わかやまにも店舗やお買い物便を増やして。
- お店のポイントカードを共通にして。



### Q 大きくなることで声が届かなくなることが不安です。

A いづみ市民生協は組合員の声を大切にし、地域社会に根ざした活動をすすめてきました。合併後もこの本質的な姿勢は変わりません。合併をすすめることで、より効率的で持続可能な事業体制の構築をめざし、より良いサービスを実現するとともに、組合員の声を反映させた運営に引き続き取り組んでまいります。

### Q わかやま市民生協の事業エリアはどこまでですか？

A 和歌山県全域が対象です。

### Q 生協の名称はどうなりますか？

A 総代会にて合併の方向性について承認された場合には、両生協の組合員に名称の公募を予定しています。同時に「新しい生協に期待すること」をテーマとしたアンケートも実施予定です。名称公募、アンケートを通じて、「新しい生協のありたい姿」の策定をすすめていきます。

### Q 今後委員会など活動はどうなりますか？

A いづみ市民生協・わかやま市民生協それぞれが培ってきた組合員活動には、地域に応じた特長があります。それらを尊重し、合併後すぐにすべてを統一することにこだわらず、地域ごとの話し合いを大切にしながら、その地域に合った活動をすすめていく方針です。

## 合併までの見通し（予定）

